

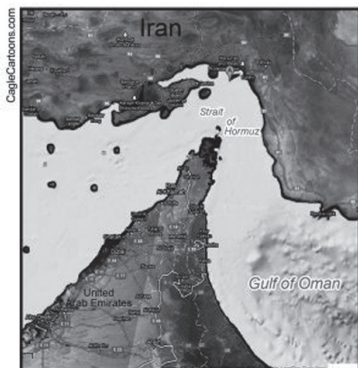
Cartoon says it all.

マンガをみれば世界がわかる

毎日新聞専門編集委員

西川恵

Iran Hand wrestling by Louogie,
China Daily, December 30, 2011



STRAIT OF HORMUZ



IRAN AND THE WEST

イラン制裁とホルムズ海峡

イランにはズールハーネと呼ばれる三〇〇〇年の歴史を誇る古式体操がある。

本来「力の家」の意のズールハーネは、上半身はだかになった競技者が重い棍棒を振り回したり、腕相撲をしながら筋肉を鍛え、肉体美と技を競う。イランは重量挙げやレスリングの国際大会で強いが、これはズールハーネの伝統と言われる。

核開発が疑われているイランに、原油禁輸、イラン中央銀行との資金取引の禁止と、国際社会の圧力が強まっている。これに対しイランは最後の切り札をちらつかせる。ホルムズ海峡封鎖だ。海峡の幅わずか四〇キロ前後。ここが封鎖されるとペルシア湾岸の産油国からの原油輸出は完全に止まる。

イランの革命防衛隊は海峡で高速艇による示威行為を繰り返す。米欧は封鎖は許さじとトーンを上げる。ズールハーネと国際社会の腕相撲。筋肉の盛り上がりはホルムズ海峡に似てくるのだ。

金総書記の死

「申し訳ないが、その核兵器は一緒に持っていけないんだよ」との声が、どこからかあの世に旅立つ金正日総書記にかけられる。

たしかに総書記の核兵器保有に対する執着は際立っていた。「瀬戸際外交」と形容された手練手管を繰り出し、国際社会の援助と引き換えに小出しの譲歩はしたもの、結局約束した核放棄を諦めることはなかった。

総書記の核へのこだわりにはルーマニアのチャウシェスク政権の崩壊がある。冷戦時代、北朝鮮とルーマニアは緊密な関係をもっていたが、一九八九年の民主主義革命でチャウシェスク大統領は軍に離反され、処刑された。これは北朝鮮に衝撃を与えた。総書記は軍掌握の必要性を痛感し、先軍政治へ走る契機となる。この中核が核開発だった。総書記の死が地域情勢にどう影響するかまだ不透明だが、「彼はその死と一緒に核開発もあの世に持っていった」と言われるようになってほしいものだ。



Kim Jong Il dead by Olle Johansson,
Sweden December 19, 2011